

該当学年	授 業 科 目 名	担 当 教 員	
1部2年 2部3年	特別支援の基礎	太田 裕子	
サブタイトル	特別なニーズのある子どもの理解と支援	単 位 数	1
授業形態	講義		
開講時期	後期	出席要件	4 / 5 以上
到 達 目 標			
<p>(1) 特別支援に関する制度や仕組みの概略を説明することができる。</p> <p>(2) 特別の支援を必要とする幼児の心理的特性、学習上や生活上の困難、必要とされる配慮や支援の方法についての原則的なことがらを説明することができる。</p> <p>(3) 主に通常の学級に在籍する特別の支援（母国語の問題等、障害以外のニーズを含む）を必要とする幼児について、関係者間の連携を含めた支援体制の仕組みの概略を説明することができる。</p> <p>(4) 情報をもとに、特別支援対象児を含むクラス全体への指導略案を具体的に考案することができる。</p>			
ディプロマ・ポリシー（専門士授与の方針）との関連			
<p>(1) ディプロマポリシーとの関連：専門士授与の方針2のうち、専門職に関する知識・技能（ここでは障害児支援と、一般の幼児・児童に対する障害理解教育の方法）の力を身につけている人を育てる。</p> <p>(2) カリキュラムマップとの関連：教員免許状取得の必修科目（教育の基礎的理解に関する科目）である。マップでは2年次に位置づけられる。</p>			
授 業 の 方 法			
<p>1回の授業の中で、講義の他、映像視聴、体験学習、事例検討等実践に役立つ演習を織り交ぜる。</p> <p>①教科書を中心に特別なニーズのある子どもに関する定義、概念といった基礎的な知識を学ぶ。</p> <p>②映像による観察学習等を通して、特別なニーズのある子どもの特性や支援法を捉える。</p> <p>③点字触読や手話の体験、障害を題材とする絵本等を通して、一般の幼児・児童に対する「障害理解教育」の方法もグループで考える。</p>			
テキスト・教材・参考図書			
<p>テキスト 改訂3版一人ひとりのニーズに応える保育と教育（聖徳大学特別支援教育研究室著、聖徳大学出版会 2023年）</p> <p>参考図書『幼保連携型こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針』チャイルド本社 2017年</p>			
評 価 の 要 点		総 合 評 価 割 合	
<p>授業中に書くリフレクションペーパーも評価の対象とする。</p> <p>定期試験は、穴埋め式の問題と記述式の問題が出題される（持ち込み不可）。リフレクションペーパーについては、適宜フィードバックし、学生の理解が不足している部分はさらに教員から説明を加える。</p>		定期試験	80%
		リフレクションペーパー	20%
履修上の注意事項や学習上の助言など			
<p>1回1回の授業を真剣に聞き、授業中に内容を理解し、その場である程度覚えてしまうような気持ちで授業に出席してください。教科書を十分活用しましょう。また、映像の学習などは、実際の子どもの目の前にする代わりに貴重な体験です。必ず映像から何かを読み取ろうという姿勢で取り組んで下さい。</p>			

科目名 特別支援の基礎

授業回数別教育内容		身につく資質・能力
1回	＜ガイダンス＞ 授業の目的や内容を理解する。 導入ビデオ（障害者と健常者が共に活動）を見る。	授業の見通しをもつ。 「共生社会」の視点をもつ。
2回	＜我が国における特別支援教育の歩み＞ 特別支援教育に関する制度と実際を各学校種（幼稚園・認定こども園・小学校通常の学級・通級等・特別支援学校）を比較し学ぶ。	「特別支援」はどこにおいても実施されていると いうことを知る。
3回	＜視覚障害児・聴覚障害児の理解＞ 視覚障害・聴覚障害に関する基礎知識を得る。点字触読による体験学習。 聴覚口話法訓練を受ける幼児の映像視聴。	視覚障害児や聴覚障害児 への支援法の基礎的な事項が説明できる。
4回	＜重複障害児の理解（映画鑑賞「奇蹟の人」）＞ 映画「奇蹟の人」（ヘレンケラー）を視聴し、次の2点から考察する。 ①視覚と聴覚両方に障害のある子どもの教育法②障害児の家族の問題	障害児の支援者のあり方 について考えることができる。
5回	＜肢体不自由児・病弱児の理解＞ 肢体不自由児・病弱児に関する基礎知識を得る。 車いす利用者の映像視聴等を通し、配慮事項を考える。	肢体不自由児・病弱児へ の支援法の基礎的な事項が説明できる。
6回	＜知的障害児の理解＞ 知的障害児の特性に関する基礎知識を得る。 知能検査の一部の映像を視聴し、何を測っているかを考える。	知的障害の特性の基礎知識 を得る。観察の記録を書くことができる。
7回	＜知的障害児の支援法＞ 知的障害児の支援法の基本を特別支援学校や個別療育場面での映像から読み取る。	知的障害児に対する代表的な指導技法が説明できる。
8回	＜発達障害児の理解と支援法の基礎1：ASD（自閉スペクトラム症）＞ ASD児の特性と本人・保護者の支援法の基本を事例を通して考える。	ASD児の特性に配慮した 代表的な支援法が説明できる。
9回	＜発達障害児の理解と支援法の基礎2：LD（学習障害）＞ LD児の特性と支援法の基本を事例を通して考える。 （ICTを利用した教材の効果も含む）	就学後学習につまずくで あろう子どもを就学前に見つける方法がわかる。
10回	＜発達障害児の理解と支援法の基礎3：ADHD＞ ADHD児の特性と本人・保護者の支援法の基本を事例を通して考える。	ADHD児の特性に配慮した 代表的な支援法が説明できる。
11回	＜障害以外の様々なニーズのある子どもの理解と支援法の基礎＞ 日本語を母語としない子どもへの支援など、障害以外の様々なニーズのある子どもの事例を通して支援法を考える。	どのような事例に対しても ニーズを把握し支援を考えることができる。
12回	＜関係者間の連携と支援体制作りのあり方＞ 立場の異なるスタッフが集まって特別なニーズのある子どもへの支援を話し合うカンファレンスを擬似体験して支援連携を考える。	自分が将来どの立場で支 援できるかを考えることができる。
13回	＜特別支援対象児を含むクラスの指導略案作り1（生活面）＞ 実習等でよく出会うタイプの発達障害（「気になる子」を含む）のトラブル事例を用いて、トラブルの原因と対応法を考える。	発達障害児に対する望ま しくない対応法に気付くことができる。
14回	＜特別支援対象児を含むクラスの指導略案作り2（学習面）＞ 特別なニーズの子どもへの支援を含む通常の学級（保育所・幼稚園）での指導略案を考える（「教室のユニバーサルデザイン」の観点含む）。	ニーズ児を含むクラス全 体への支援を具体的に考えることができる。
15回	＜まとめ＞ 授業の振り返りを行う。	これまでに学んだうち重 要な点がわかる。
試験	定期試験	